

Rikkyo Service Learning

立教サービスラーニング(RSL)

GUIDE 2023



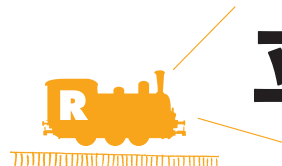
立教大学

RSLへようこそ!

RSLは、社会の課題に対して、
講義室で得る知識と自発的な学修や活動(ボランティア等)を通じた経験から
得られた学びを結び付けることを一つの目的としています。
例えば、地域や国際社会をフィールドとする活動や
地球環境への配慮に対する取り組みについて、新たな考え方が得られるはずです。
また、RSLで学んだ経験は、今後の人生を豊かにし、
岐路に立たされたときにこそ活かされるかもしれません。
ぜひ、RSL科目を受講し、大学生活を実りあるものにしてください。

立教サービスラーニング(RSL)センター長
山下 王世(立教大学副総長 文学部教授)





立教サービスラーニング（RSL）って？

大学の学びとは？

大学の学びは「答えのない問いについて考えること」であるといわれます。そのためには、深めたいテーマとの出会いを自分から積極的に探す姿勢が大切です。立教サービスラーニング（RSL）センターは、人によって意見が異なる社会的課題について、学生が現場で体験し、その事柄を専門的に学び合う環境を提供します！

RIKKYO Learning Style（「専門性に立つ教養人の育成」）

立教大学は、4年間の学生生活（学士課程）を授業だけではなく、サークルやボランティアなど、様々な活動と体系づけて考えています。そのため、学生生活を3つの期間〈導入期・形成期・完成期〉に分け、各学部で専門性を究めるだけでなく、4年間のあらゆる学びの蓄積が個々の将来の目標に通じるよう、豊かな学びのスタイルを提供します。

立教サービスラーニング（RSL）の定義

社会の現場での活動と、教室における学問的な教育との結合を目指す実践型の教育プログラムの一形態であり、正課科目として展開しています。さまざまな分野で現場の専門機関の指導のもと、学生たちは一定期間の社会的活動等を行い、その実践と理論的学習を統合することで、単位が付与されます。

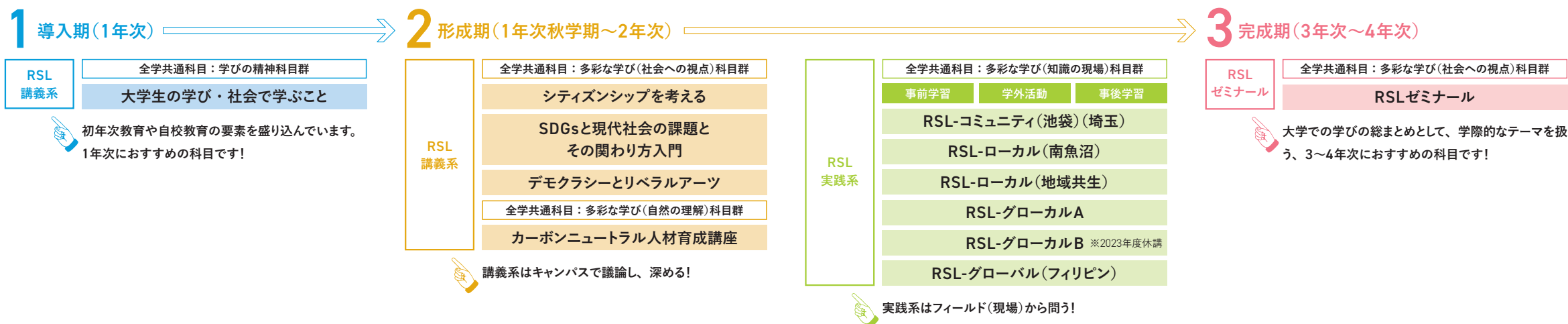
立教サービスラーニング（RSL）センター ミッション・ステートメント

立教サービスラーニング（RSL）センターは、その使命の実現に向けて、
以下を目的とした教育を実践します。

- 受講生は、立教大学で学ぶ学生のひとりとして、そしてデモクラシーを担うひとりの市民として、社会の中で状況や立場に応じて多様な役割を果たすという意識と態度を形成します。
- 受講生は、地域社会に生活する人々に寄り添い、共に活動することを通じて、その地域が大切にしてきた価値や文化を知り、その地域社会の未来について共に考えます。
- これらのために、自らの思考や行動を組み立てる上で必要となる知識と技法をサービスラーニングのアプローチから身につけます。

RIKKYO Learning Styleの〈導入期・形成期・完成期〉に合わせて、講義系・実践系等それぞれの科目（全学共通科目）が用意されています。

※各期の学年以外でも履修することは可能です。詳しくは「履修要項」や「R Guide」「シラバス」を確認する、またはRSLセンターまでお問い合わせください。



Rikkyo Service Learning

講義系 科目



講義をもとにグループディスカッションや全体発表、そして実際にフィールドで活動している方からのお話(市民生活の課題とその取り組みの報告)など、「座学」だけでは終わらない講義系科目群です。



大学生の学び・社会で学ぶこと

立教大学だからできる「学び」と社会との「つながり」がある

立教大学の「共に生きる」という精神は大学4年間の学びのカリキュラムと深く関わっています。授業の前半では、チャプレンや大学職員が立教大学の歴史やその精神、立教大学における学びの仕組みとその構造、ボランティアなどの正課外教育活動等について話します。後半では、科目担当教員の専門領域の知見を通して、「大学で学ぶこと」と「社会とつながること」の意味について参加者全体で考えていきます。

シティズンシップを考える

「市民」(citizen)としての「合意」と「選択」の本質とは？

日本は2016年に「18歳選挙権」が導入されました。これは新たに18歳～19歳も、地方自治や国政に参画する責任と義務が生じたということです。また、2022年4月からは成年年齢も18歳に引き下げられ、私たちは「子ども」と「大人」の境界線や「市民」の意味といった問いに今改めて直面することとなりました。この授業では、受講生同士のグループディスカッションと発表、模擬選挙の実施や高大連携授業等を通して、「市民」と「主権者」の意味に迫ります。

デモクラシーとリベラルアーツ

社会のなかの自分を発見するために
ーリベラルアーツとデモクラシーの再確認ー

「リベラルアーツ」とは、自分と社会がより豊かにつながるための学問と考えることができます。この授業では、「リベラルアーツ」や「デモクラシー」という言葉の意味を多角的に考察し、民主主義のあり方やリベラルアーツの本質について理解を深め、「市民」としての自分の役割を再発見します。

カーボンニュートラル人材育成講座

地球温暖化・気候変動問題の解決に
つながる企画を提案してみよう！

近年、極端な熱波、干ばつ、熱帯低気圧の強大化、豪雨などの異常気象が、世界中の人々の生活に深刻な被害をもたらし、生態系にも大きな影響を与えています。この授業では、地球環境の現状をファクトに基づき理解した上で、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする取り組み(カーボンニュートラル)について深く学び、実際に企業や組織においてカーボンニュートラルを実現するための施策を提案・実行できる人材を育成することを目標とします。

SDGsと現代社会の課題と その関わり方入門

多彩なゲストスピーカーと考える
SDGs達成への道のり

気候変動、ジェンダーの不平等、貧困と格差…私たちが直面する地球規模課題を、SDGsというレンズを通して見つめます。この授業では、企業の社会貢献部門の担当者や、国際協力NGOのスタッフ、地方創生に取り組むNPOの職員など、課題解決の最前線で活躍するゲストスピーカーを迎え、SDGsと現代社会の課題を多角的に考察します。

RSL ゼミナール

「平和」ってなんだろう？

「日本は、いま、平和？」この問いかけに対して、皆さんはどのように答えますか？ この授業では、過去の戦争や内戦の事例から、平和教育の役割や可能性について理解を深めます。紛争解決や平和構築、多文化共生など、毎回ひとつのテーマをもとに国内外の事件や歴史を取り上げ、ディスカッションをおこないます。履修生同士が意見交換をすることで、さまざまな価値観に出会うことができるとともに、自分の考えとじっくり向き合うことができるクラスです。

Rikkyo Service Learning

実践系 科目

学外活動を伴う科目



立教大学に在籍する
全ての学生がともに語
り、学びあうことがで
きる「フィールド」がこ
こにあります。

単なる履修では終わ
らない社会とのつな
がりに積極的にチャ
レンジしよう！

※RSL実践系科目は、「事前
学習→学外活動(フィールド
ワーク)→事後学習」すべての
出席が必須となります。
RSL 実践系科目は、「抽選」
と「その他」登録科目があり
ます。「シラバス」や「R Guide」
「履修の手引き」を確認の
うえ、履修を希望する科目の
説明会に必ず出席してください。



RSL- コミュニティ(池袋)

多文化共生の視点から 池袋地域における相互連帯のあり方を考える

「池袋」について、どのようなイメージを持っていますか？

豊島区は日中韓で展開された「東アジア文化都市2019」の国内交流都市に選ばれるなど、池袋を中心にまちづくりも大きな国際化の流れの中にあります。また、2018年に池袋キャンパスは100周年という節目を迎え、地元との関係づくりに新たな1頁を記しました。

この授業では、外国籍住民も増え続けているなど急速にグローバル化に伴う変貌をとげている池袋地域をフィールドとして、「多文化共生と相互連帯」というテーマに取り組みます。池袋を主なフィールドに、多様な文化的背景を持つ住民の生活課題を「歴史・記憶」「次世代・子育て」「芸術・文化」の3領域から見える化し、住民との協働を通じて改善を図るための方法論を主体的かつ具体的に計画しながら、相互連帯の仕組みにつながるアプローチを考えていきます。

また、「池袋キャンパス」という存在が、地域社会の中で果たしうる役割についても現場での活動を通して皆さんと考えてみたいと思います。

RSL-コミュニティ(埼玉)

みえない「貧困」の意味を問う

厚生労働省によると、日本で貧困状態にある子どもの割合は7人に1人とされています。GDPで世界第3位の日本は、今なお経済的には豊かな国のはずなのに、なぜこれほど貧困に苦しむ子どもがいるのでしょうか。特に相対的貧困として語られる日本の社会状況では、子どもの貧困は可視化することが難しく、さまざまな事情から学びたいのに学べない、学ぶ意欲が持てない子どもたちが社会から置き去りにされている現実があります。

この授業では、サービスマーケティングの手法に基づきながら、埼玉県内の各地で生活困窮世帯の中学生を中心に「学習支援」と「家庭訪問」活動等を展開している団体の事業に参加します。教室に参加する中学生への学習サポートを通して、日本の社会保障制度の中心的な政策の一つである生活保護制度の運用実態に触れるとともに、みえづらなくなった貧困と格差、社会的包摂を巡る諸問題についての理解を深めます。



RSL-ローカル(地域共生)

ローカルな視点から SDGsとWell-Beingのあり方を考える

SDGsは「持続可能な社会」と同時に「誰ひとり取り残さない社会」を目標としています。しょうがい者であることで社会参加ができないというハンディキャップには、人にあわせた仕事の創出等の工夫により、Goal3「すべての人に健康と福祉を」/8「働きがいも経済成長も」/9「産業と技術革新の基盤をつくろう」/11「住み続けられるまちづくりを」といった複数のGoalへのアプローチが可能となります。

この授業では、埼玉県熊谷市内で農福連携に取り組むソーシャルファームと“地域を食でデザインする”をコンセプトに活動する団体の活動に参加し農産物の生産から商品として消費者に提供されるまでの食の地産地消を巡る一連の過程(Farm to Fork)について体験的に理解を深め、誰もが幸福に持続可能な社会で暮らせる方法について実践の中から五感で学び、自ら行動する技法を身につけることを目指します。

Rikkyo Service Learning

実践系 科目

学外活動を伴う科目



立教大学に在籍する全ての学生がともに語り、学びあうことができる「フィールド」がここにあります。

単なる履修では終わらない社会とのつながりに積極的にチャレンジしよう！

※RSL実践系科目は、「事前学習→学外活動(フィールドワーク)→事後学習」すべての出席が必須となります。

RSL 実践系科目は、「抽選」と「その他」登録科目があります。「シラバス」や「R Guide」「履修の手引き」を確認のうえ、履修を希望する科目の説明会に必ず出席してください。

RSL-グローバルA

実践SDGs-河川／ 海洋ごみ問題の現場から学ぶ社会課題

世界的に注目されている海洋ごみがその他の社会課題と相互につながっていることを、講義や東京都荒川河川敷でのフィールドワークを通じて認識し、課題の構造やその解決に向けた視点を養います。また、実際に、荒川河川敷の清掃活動イベントを運営することで、その課題解決の取組を経験します。

この授業では、SDGsの掲げる「12.つくる責任つかう責任」「14.海の豊かさを守ろう」「15.陸の豊かさを守ろう」「17.パートナーシップで目標を達成しよう」に焦点を当て、「だれ一人取り残さない」ために私たちはどう考え、どう行動していくことが必要なのかを学びます。



RSL-ローカル(南魚沼)

農山村地域での交流から考える 自然との共生と持続可能なまちづくり

新潟県南魚沼市は、世界のなかでも最豪雪地帯の一つであるといわれています。その雪深さゆえ、地元では家屋等に積もった大量の雪の除雪作業を「雪かき」ではなく、「雪ほり」と呼んでいます。真冬の生活は厳しいものではありませんが、南魚沼地域はその「場」にしかない四季折々に変わる豊かな自然の表情と食の恵みを私たちに与えてくれています。一方で、現代日本の社会的な課題の一つである過疎・高齢化の問題に直面しています。

この授業では、真冬の南魚沼地域を活動のフィールドとし、現地での「雪ほり」活動や地域住民の方たちとの交流を通して南魚沼地域の生活文化等を学びます。農山村地域での生活体験を通して、過疎・高齢化地域の現実や「豊かさ」の意味と向き合い、地域に住む方たちと共に地域活性や自然との共生のあり方等について考えます。

RSL-グローバル(フィリピン)

アジア地域の大学連携によるフィールド プログラムで国際的な課題と向き合う

この授業では、立教大学がもつ独自のグローバルネットワークであるCUAC(世界聖公会大学連合会)と連携し、フィリピンのケソン市にあるトリニティ大学が展開するサービスマニシングプログラムに参加します。活動するマニラ近郊のコミュニティでは、社会格差が深刻化しており、目に見える貧困とどのように向き合うかが社会的な課題となっています。トリニティ大学では、地域の人に「寄り添う」ことを中心に「教育」や「医療」等における支援活動を展開しており、この活動に日本国内の聖公会関係大学や韓国、フィリピン等の大学生がチームとなって一緒に向き合い、地域に寄り添う具体的な手法を国際的な視点で検討することを目指します。



2023年度 全学共通科目 RSL科目一覧

1. RSL講義系科目(曜日・時限は「シラバス」「R Guide」参照)

学期	キャンパス	科目名	担当者	単位数	履修対象年次	備考
春学期	池袋	大学生の学び・社会で学ぶこと	中川 英樹	2	1年次以上	1年次推奨
			福原 充			
	新座	デモクラシーとリベラルアーツ シティズンシップを考える	中沢 聖史		2年次以上	
			林 大介			
秋学期	池袋	大学生の学び・社会で学ぶこと シティズンシップを考える	中沢 聖史		1年次以上	1年次推奨
			堀本 麻由子			
	池袋 新座	SDGsと現代社会の課題とその関わり方入門 カーボンニュートラル人材育成講座	中沢 聖史			※履修定員:80名
			河村 賢治 村上 千里			

2. RSL実践系科目(曜日・時限は「シラバス」「R Guide」参照)

学期	キャンパス	科目名	担当者	単位数	履修対象年次	備考
秋学期		RSL-コミュニティ(池袋)	福原 充		1年次以上	※履修定員:20名 ※事前・事後学習は秋学期・水曜に設定 ※フィールドワークは10月～12月に実施
		RSL-コミュニティ(埼玉)	田中 聡一郎			※履修定員:15名 ※事前・事後学習は秋学期・金曜に設定 ※フィールドワークは10月～12月に実施
		RSL-ローカル(南魚沼)	高野 孝子			※履修定員:15名 ※事前学習は12月、事後学習は2月 ※フィールドワークは2024年2月に実施
春学期	池袋	RSL-ローカル(地域共生)	加賀崎 勝弘	2	2年次以上	※履修定員:15名 ※事前学習は6月～7月、事後学習は8月 ※フィールドワークは夏季休業期間に実施
秋学期		RSL-グローバルA	今村 和志		1年次以上	※履修定員:20名 ※事前学習は12月、事後学習は2月 ※フィールドワークは2024年2月に実施
		RSL-グローバルB	中沢 聖史			※2023年度休講
		RSL-グローバル(フィリピン)	中沢 聖史			※履修定員:15名 ※事前学習は9～10月、事後学習は2月 ※フィールドワークは2024年2月に実施

3. RSLゼミナール(曜日・時限は「シラバス」「R Guide」参照)

学期	キャンパス	科目名	担当者	単位数	履修対象年次	備考
春学期	池袋	RSLゼミナール	中沢 聖史	2	2年次以上	3、4年次を推奨 ※履修定員:30名

※新型コロナウイルス感染拡大の状況により、授業形態・内容等が変更になる可能性があります。科目履修に関する最新情報は「シラバス」「R Guide」をご確認ください。

立教サービスラーニング(RSL)センター



池袋キャンパス

〒171-8501
東京都豊島区西池袋3-34-1
TEL 03-3985-3819
FAX 03-3985-4657
開室時間
月～金 9:00～17:00
土 9:00～12:30



新座キャンパス

〒352-8558
埼玉県新座市北野1-2-26
TEL 048-471-7239
FAX 048-471-7312
開室時間
月～金 9:00～17:00

メールアドレス: rsl@rikkyo.ac.jp

ホームページURL: <https://spirit.rikkyo.ac.jp/rsl/>



【最新情報はこちら】

Twitter: @rikkyo_rsl



立教大学